

# 東燃ゼネラル石油株式会社

## 2005年12月期 中間決算説明会

---

2005年8月23日  
東証アローズ



### 見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通し、戦略などは、日本経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、市場の競争状況などにより大きく影響されます。そのため、実際の業績はこれら見通しとは大きく異なる可能性がありますので、投資判断などに際してはこれらの計画、見通しに全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

---

- 事業概況

G. W. プルーシング

- 2005年12月期中間決算および  
通期業績予想の修正

W. J. ボガティ

- 精製・供給部門について

武藤 潤

- 化学部門について

D. L. シュスラー

# 事業概況

---

G. W. プルーシング

東燃ゼネラル石油(株)

代表取締役 会長兼社長

エクソンモービル・グループ

日本代表

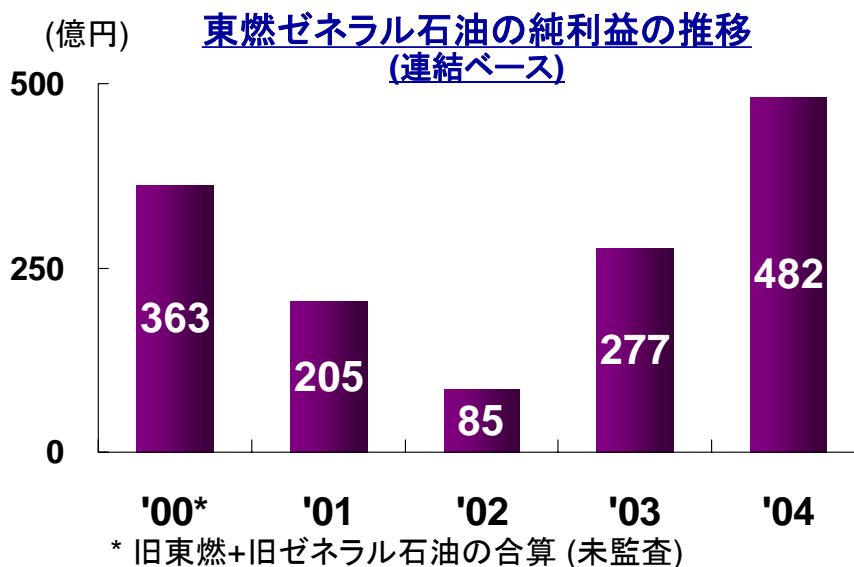
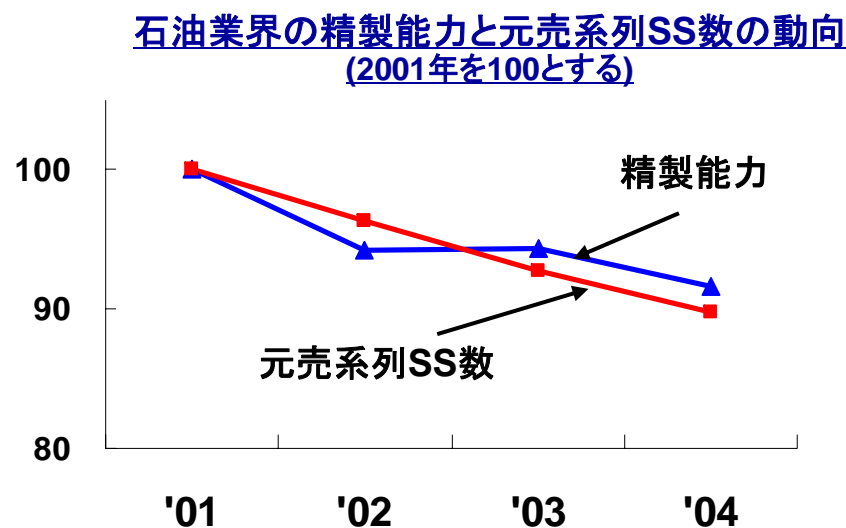
# 東燃ゼネラル石油発足から5年が経過

## ■ 石油業界の状況

- » 精製、販売両部門における設備過剰の解消のペースは遅い
- » 過去18ヶ月間にわたり原油価格は急騰
- » 2003年および2005年に低硫黄燃料を導入
- » 2004年以降、石油化学部門の高収益が続く

## ■ 石油業界の課題に対する東燃ゼネラル石油の取り組み

- » 厳しい業界環境にあっても、中核事業に利益をもたらす資産の維持・形成
- » 長期的な視野に立って収益性と投資効率を追求



# 「良き企業市民」として

## ■ 安全

- » すべての業務遂行項目に優先する最重要課題
- » “Nobody Gets Hurt” 「誰も怪我をしない、怪我をさせない」というビジョンの達成

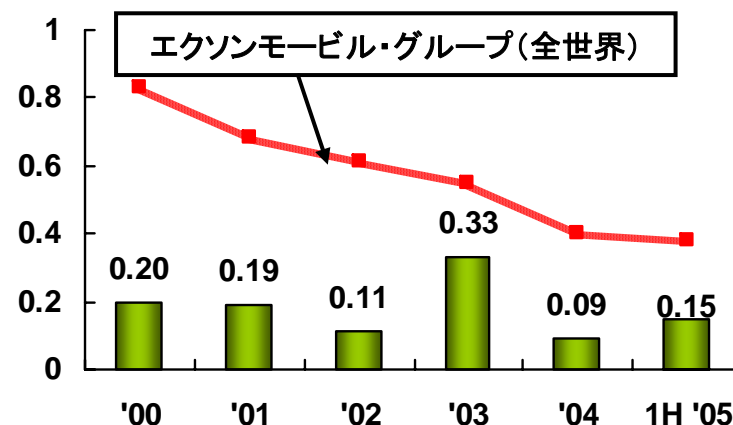
## ■ コーポレートガバナンス、企業倫理

- » 明確な業務遂行基準
- » 完璧な経営管理システム
- » 効果的な監査役制度
- » 厳格な内部監査

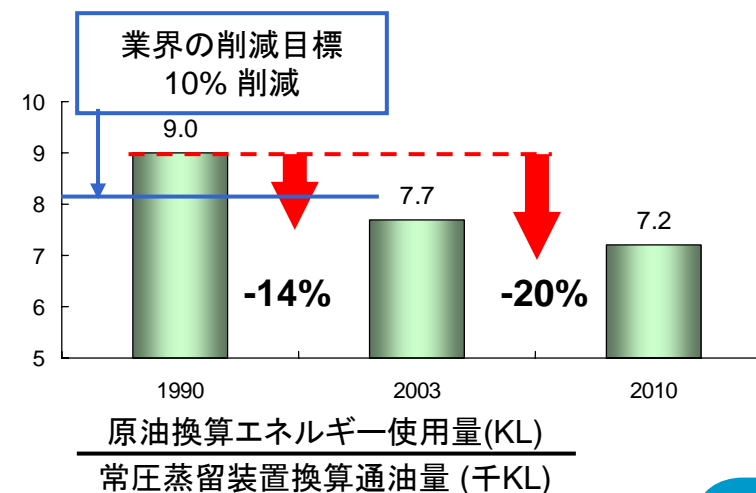
## ■ 環境に対する真摯な取り組み

- » 製油所と石油化学工場の省エネルギー活動と温室効果ガス排出対策
  - GEMS (包括的なエネルギー管理システム: Global Energy Management System)による省エネルギー活動
  - コージェネレーションの活用

労働災害発生率 (20万時間あたりの件数)  
(東燃ゼネラル石油と全世界のエクソンモービル・グループの比較、石油精製・供給部門)



製油所のエネルギー消費原単位  
(連結ベース)



# 業界をリードする事業効率

## ■ エクソンモービル・グループの一員である優位性を最大限に利用

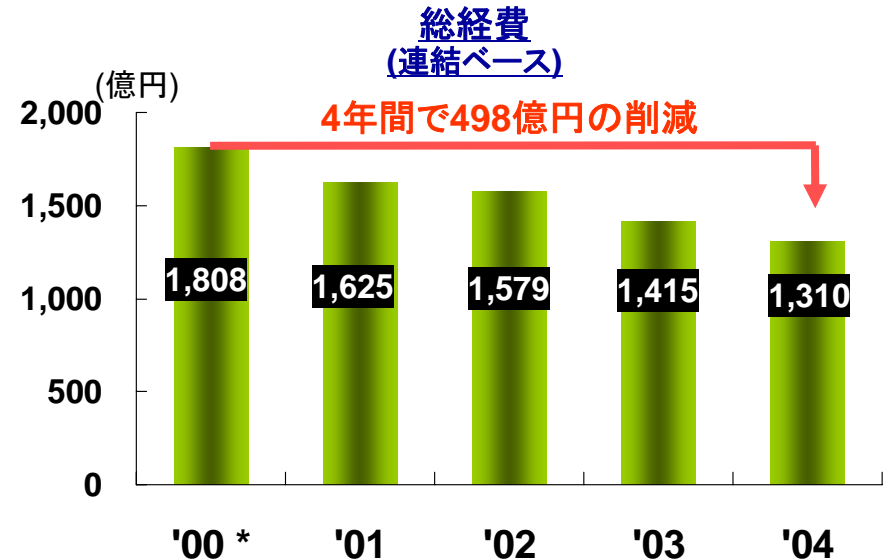
- » 世界で得られたベスト・プラクティスの応用
- » エクソンモービル・グループの世界的ネットワークの活用
  - 管理・サービス業務のためのビジネスセンター
  - 最終製品や半製品の国際的な融通

## ■ コスト削減の徹底的な追求

- » 合併以来、年率約7%の総経費の削減

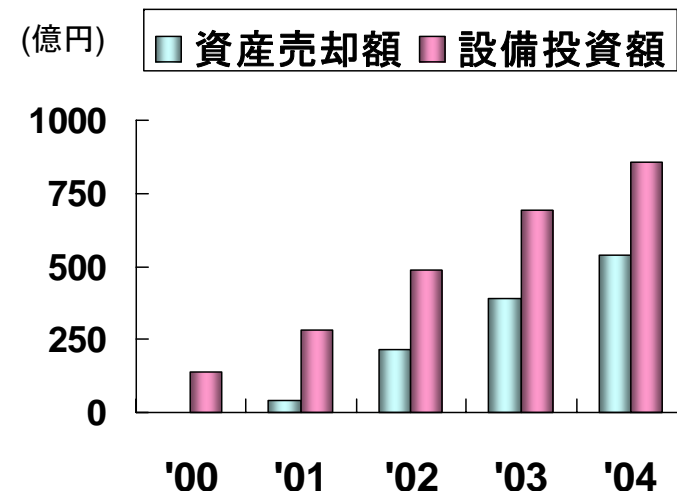
## ■ 厳選された投資

- » 長期的な観点に基づく投資の選別
  - コンビナート・ルネッサンス計画への参加
  - 「エクस्प्रेस」ブランドのセルフSSの展開
  - 微多孔膜(MPF)生産ラインの拡張
- » 資産の事業価値を見極めた上での選別的な売却



\* 旧東燃+旧ゼネラル石油の合算 (未監査)

設備投資額と資産売却額の累計 (連結、簿価ベース)

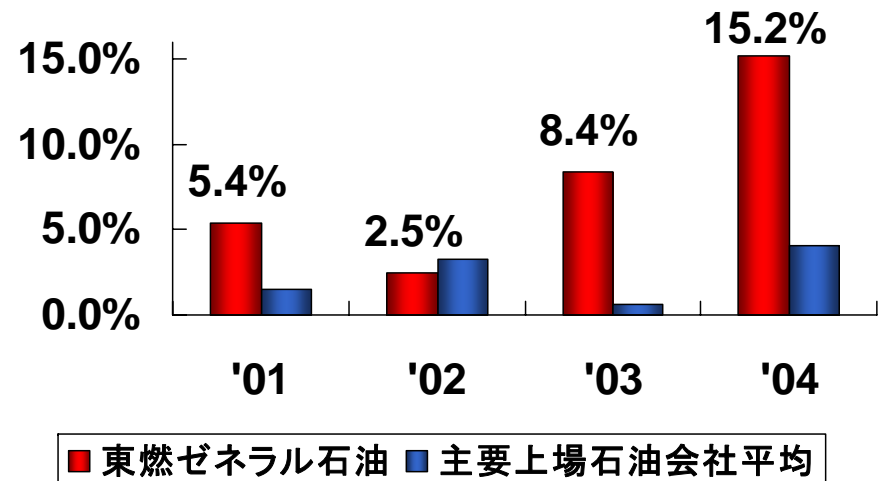


# 業界をリードする収益性

## ■ 使用資本利益率(ROCE)で示された卓越した収益性

- » 高度に統合された石油精製・販売部門と石油化学部門を擁する企業として世界水準の競争力を追求
- » 使用資本利益率(ROCE)を重視
  - 企業業績を長期にわたって評価する上で有意義な財務指標
  - 過去の投資の効果を測定する上で有効
- » 当社の目標: 単なる収益向上ではなく、より効率的に収益をあげること

使用資本利益率(ROCE)のトレンド  
(東燃ゼネラル石油と主要上場石油会社平均の比較)



ROCE: 利払前税引後利益/(平均株主資本+平均実質有利子負債)

- » 当社が販売や技術面で競争的優位性を持つ中核事業に資本を集中

# 卓越した株主還元

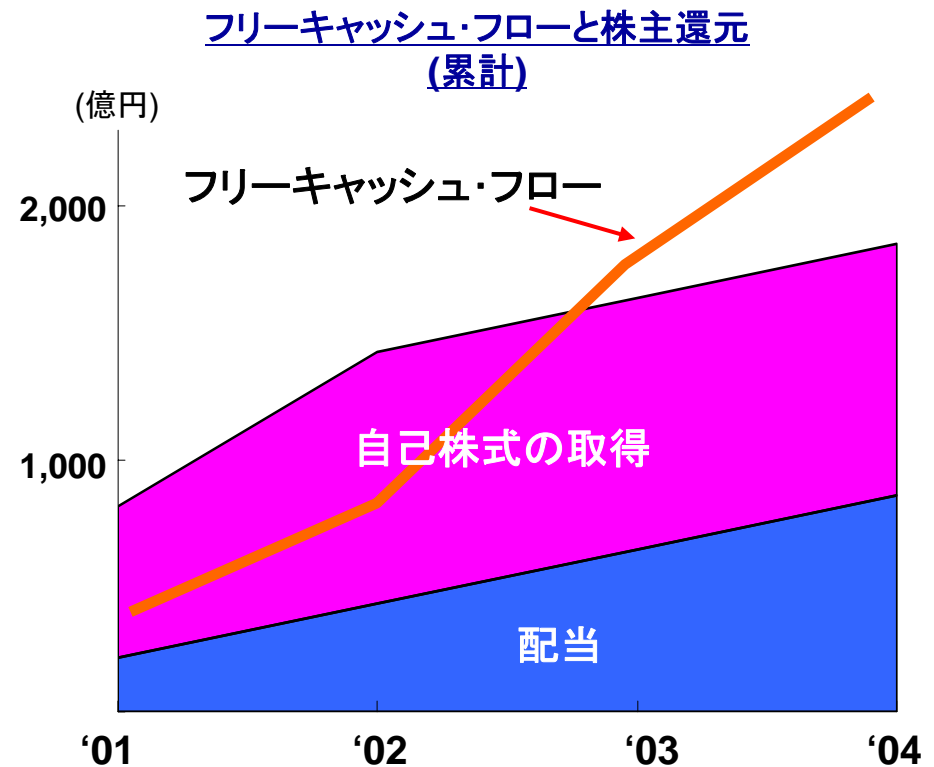
## ■ 基本原則

- » 事業に当面不必要な資金は株主に還元されるべきである
- » 長期的な株主価値の増大と株主還元の均衡をとる

## ■ 過去4年に生み出されたキャッシュの 使いみち:

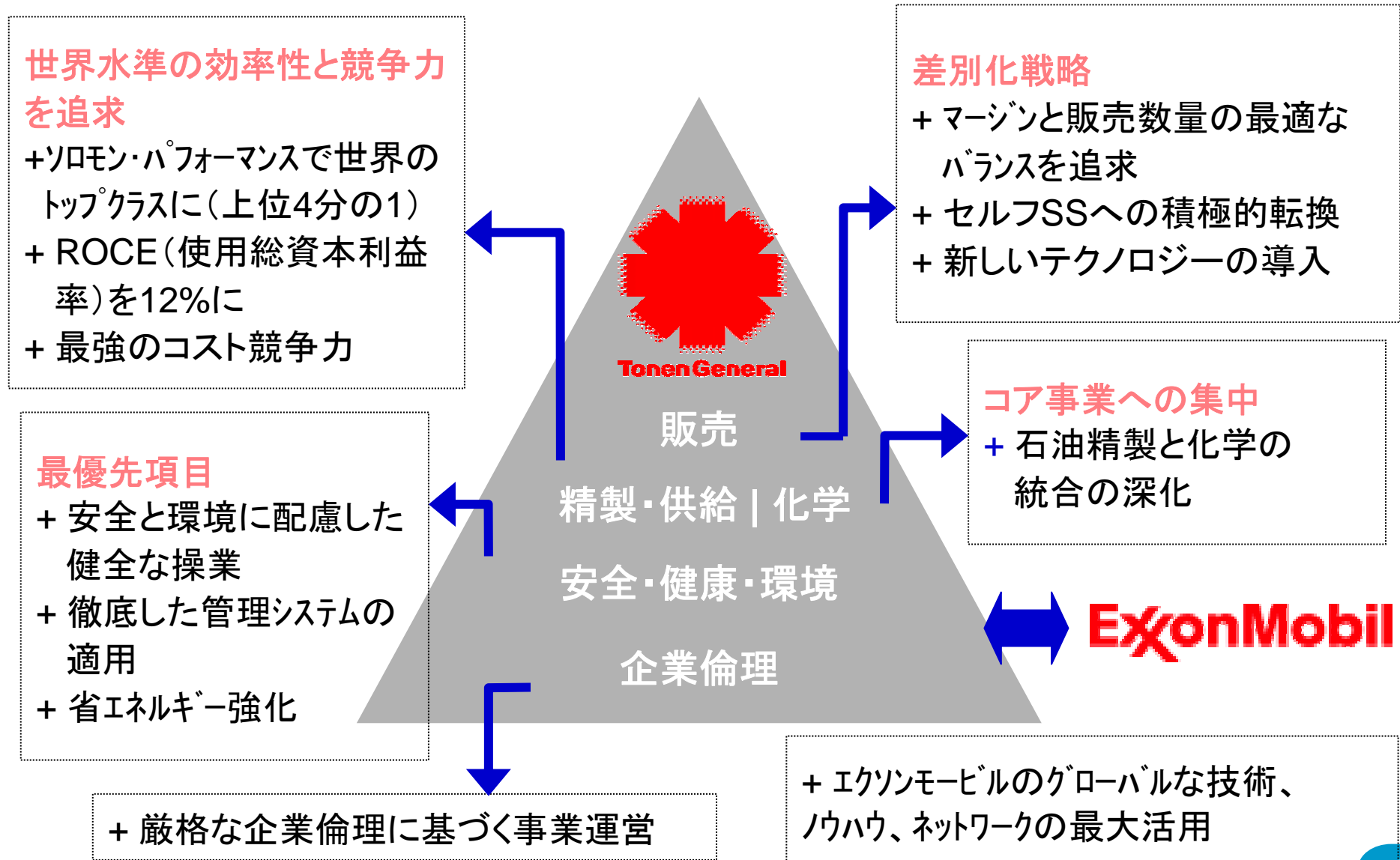
- » 720億円の設備投資
- » 1850億円にのぼる株主還元 (850億円の配当と1000億円の自己株式の取得)

## ■ 経営環境を慎重に見極め、株主還元の ベストミックスと時期を冷静に分析





# 重要な経営方針と戦略 - 従来と変更なし



# 2005年12月期中間決算 および 通期業績予想の修正

---

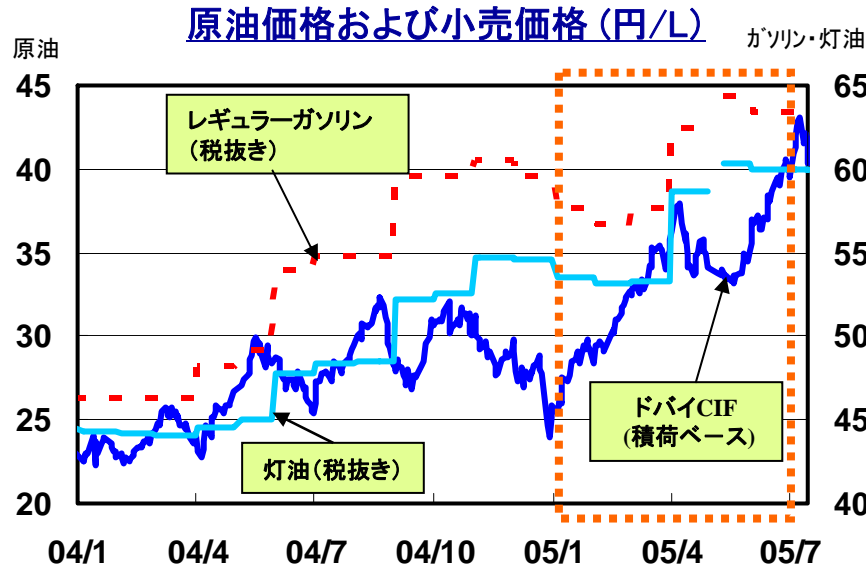
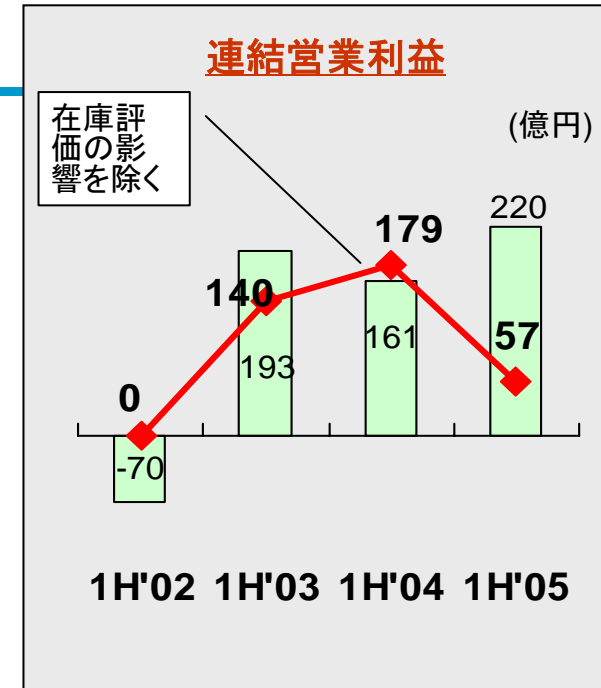
W. J. ボガティ

東燃ゼネラル石油(株)  
取締役

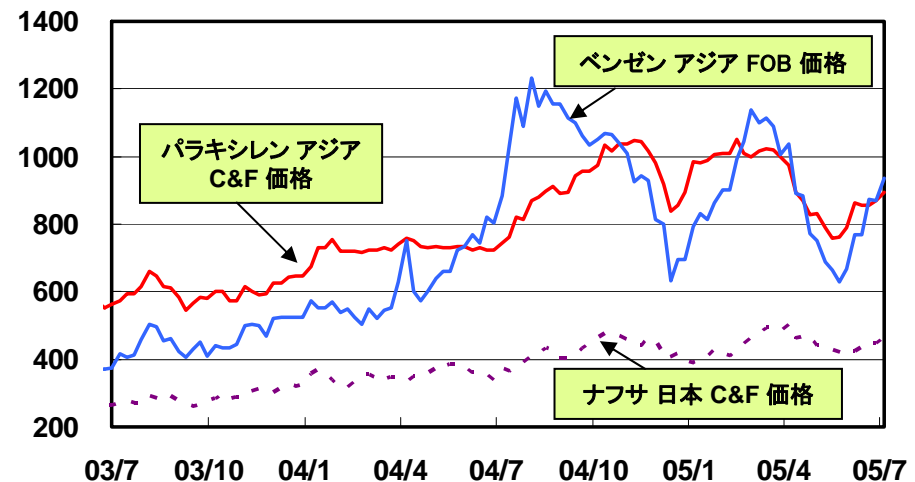
エクソンモービル(有)  
代表取締役 副社長

# 決算ハイライト

- '05年上期営業利益は、前年同期比で増益
- 在庫評価の影響を除く営業利益は減益
  - ▶ 製造・販売ならびに経費削減等の主な事業活動は当初の計画通り、またはそれを上回る成果
  - ▶ 石油化学製品マージン・利益は好調を持続
  - ▶ 原油価格急騰の影響により石油製品のマージンは減少
    - 原油調達コストを積荷時点で認識するため、業界他社より1ヶ月早く認識
- ▶ 在庫評価は増益要因



芳香族製品 アジア スポット 価格トレンド (\$/トン)

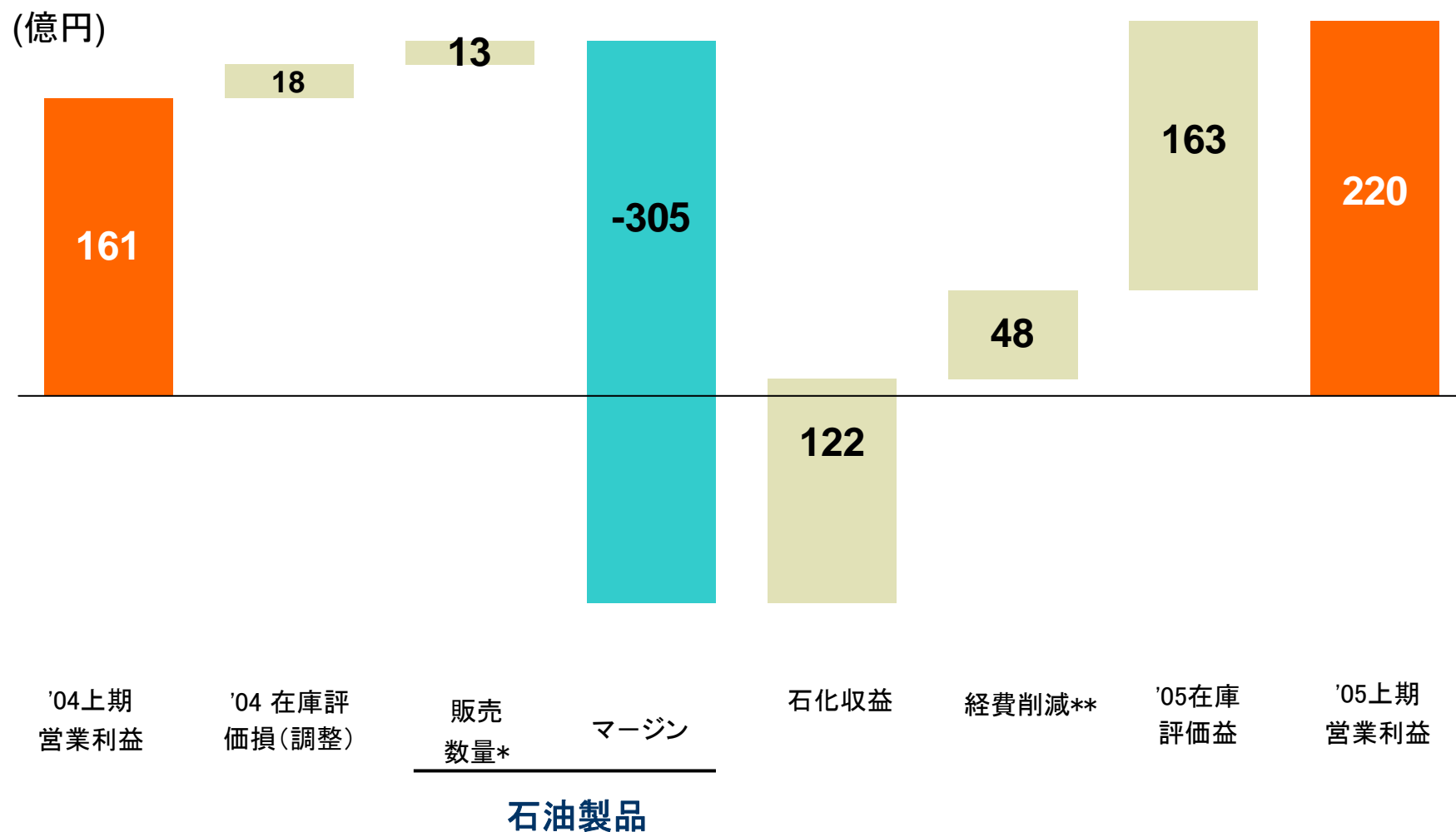


# 損益計算書 [連結]

(億円)	'04年上期	'05年上期	増減
売上高	10,773	<b>13,249</b>	2,475
- 営業利益	161	<b>220</b>	59
経常利益	177	<b>239</b>	62
特別損益	24	<b>-1</b>	-25
中間純利益	124	<b>148</b>	24
在庫評価の調整	+18	<b>-163</b>	-181
→ 調整後営業利益	<b>179</b>	<b>57</b>	<b>-122</b>
石油部門	22	<b>-204</b>	-226
石油化学部門	157	<b>261</b>	104

# 営業利益の要因分析

['05年上期実績 vs. '04年上期実績; 連結]



\* 主要製品を基準とする(次ページ参照)

\*\* 会計処理変更による影響を除く

# 販売数量/稼働率

- 厳冬により大幅に伸びた灯油に加え、前年上期の定期修理の影響が無くなった為、多くの製品で前年同期を上回る販売数量
- 前年同期実績を上回る設備稼働率

## 石油製品 (連結、バーターを除く)

(千KL)		'04 上期	'05 上期	増減	業界増減
製品	ガソリン	5,696	5,981	5.0%	+1.8%
	灯油	2,134	2,649	24.2%	+6.4%
	軽油	2,203	2,531	14.9%	0.1%
	A重油	2,110	2,058	-2.5%	-0.7%
	C重油	1,709	1,565	-8.4%	-3.0%
	LPGその他	1,734	1,823	5.1%	N/A
部門別	販売部門 (ゼネラルブランド向)	4,162	4,444	6.8%	
	精製部門 (エッソ/モービル/キクナス向)	11,424	12,162	6.5%	
	小計	15,586	16,606	6.5%	1.1%
	その他*	3,801	3,741	-1.6%	その他*: 潤滑油、原油、輸出、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む
	総計	19,387	20,347	5.0%	

## 化学製品 (連結)

(千トン)		'04 上期	'05 上期	増減
	オレフィン類他 (東燃化学分)	942	939	-0.3%
	芳香族 (東燃ゼネラル石油分)	388	401	3.4%
	化学製品合計	1,329	1,340	0.8%

設備稼働率 (単体/連結)

79%/76%

86%/80%

85%

# 原油価格を1ヶ月早く認識すること、および在庫評価の影響

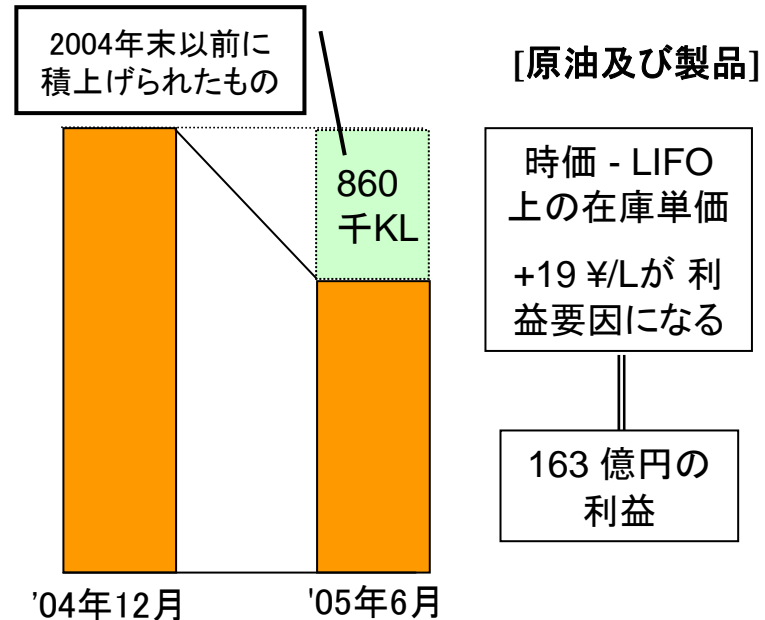
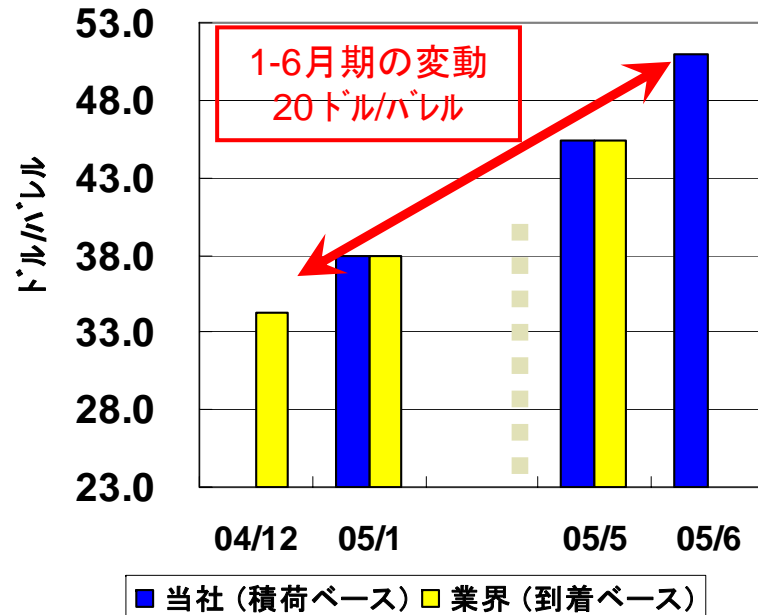
原油価格は'05年1-6月期中にドバイ原油で約20ドル/バレルの急騰

## 原油価格を1ヶ月早く認識することによる影響

当社は原油調達コストを積荷時点で認識するため、原油価格の変動を業界他社よりも約1ヶ月早く認識する  
 原油価格を1ヶ月早く認識することの影響はドバイ原油ベースでおよそ260億円と試算される

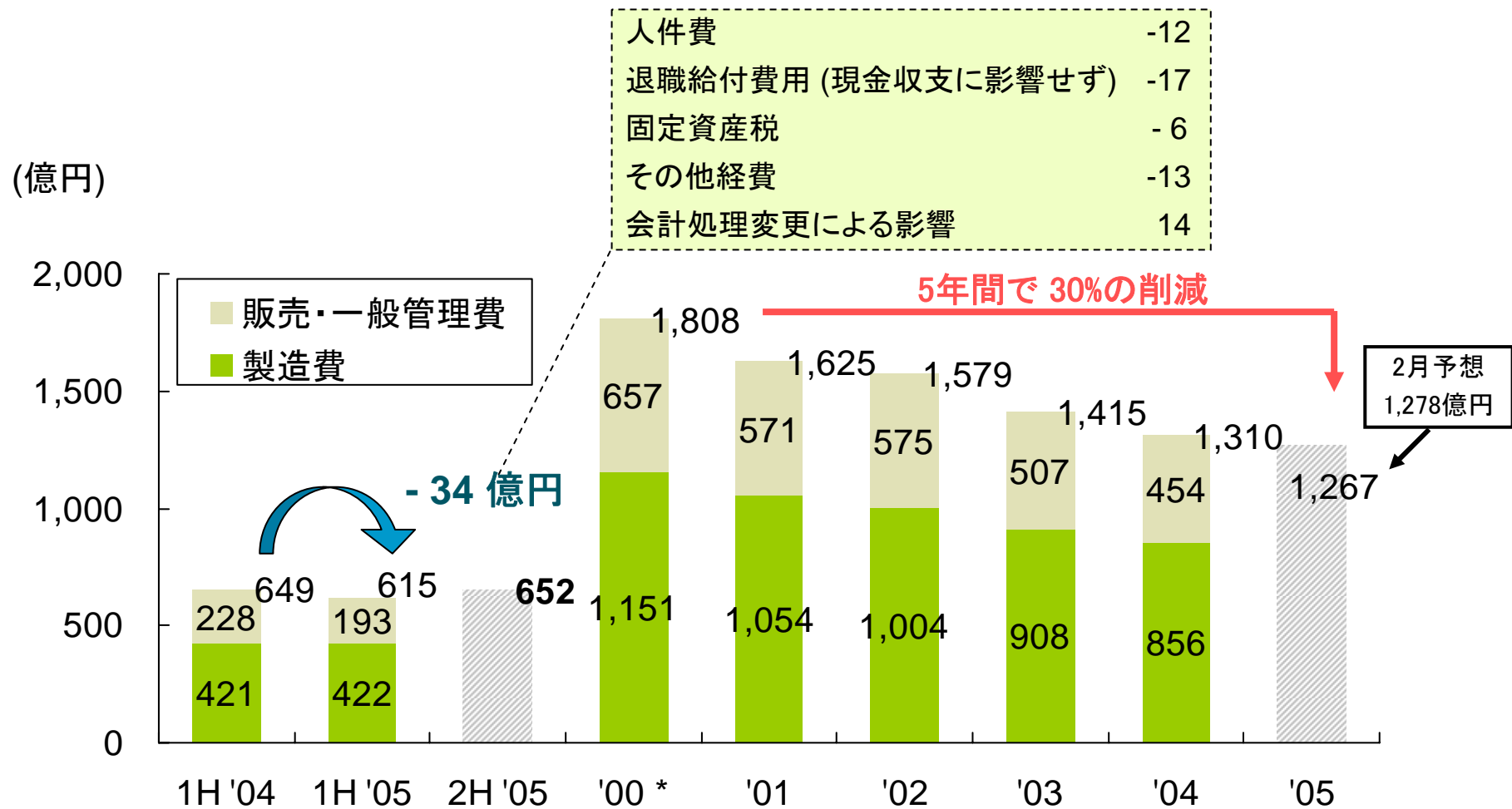
## 在庫取崩しによる利益

営業利益には163億円のLIFO(後入れ先出法)による原油・製品在庫取り崩しによる利益が含まれる



# 経費 [連結]

- 継続的に経費を削減; 2月に作成した計画を上回る結果





# キャッシュ・フロー、借入、資本 [連結]

(億円)

## 営業活動 / 投資活動

税引前中間純利益  
設備投資額 / 減価償却費  
資産売却  
たな卸資産  
売掛金/買掛金/未払揮発油税等  
法人税支払い  
その他

## 財務活動

借入金を増(減)  
短期貸付金の(増)減  
配当金の支払額

## 現預金の増減

'05年上期 揮発油税  
調整後

38

377

■ 健全な財務状態が継続

238

35

17

169

-156

183

-219

-46

-252

-35

87

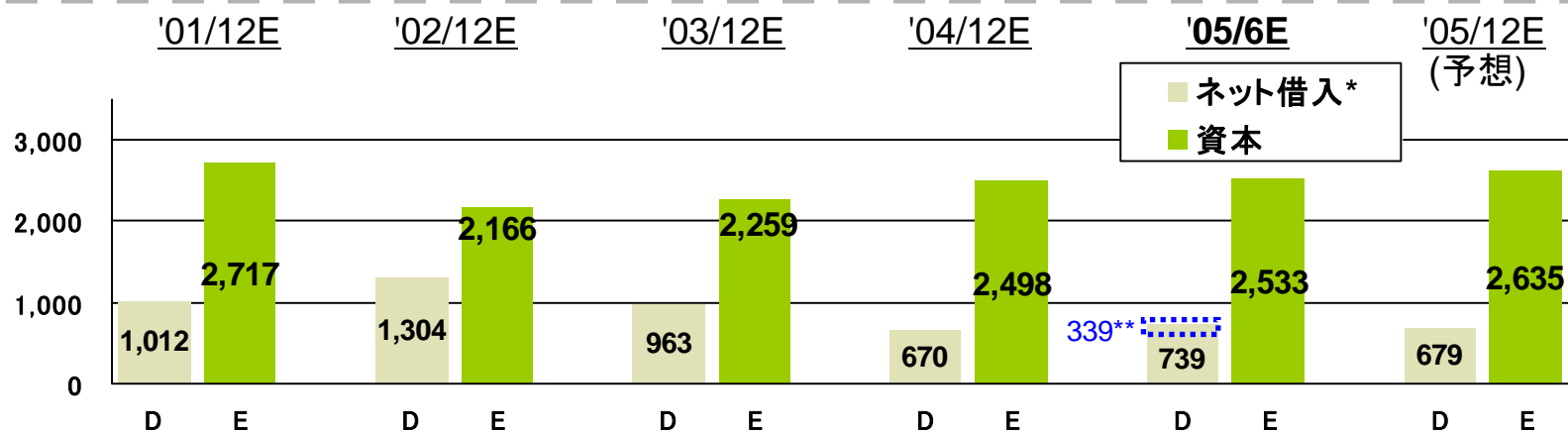
-14

-107

3

'05年上期に揮発油税を1ヵ月分多く支払った結果、ネット買掛金(買掛金 + 未払揮発油税 - 売掛金)が339億円減少し、借入金と同額分増加

(億円)



ネットD/Eレシオ\* :

0.37

0.60

0.43

0.27

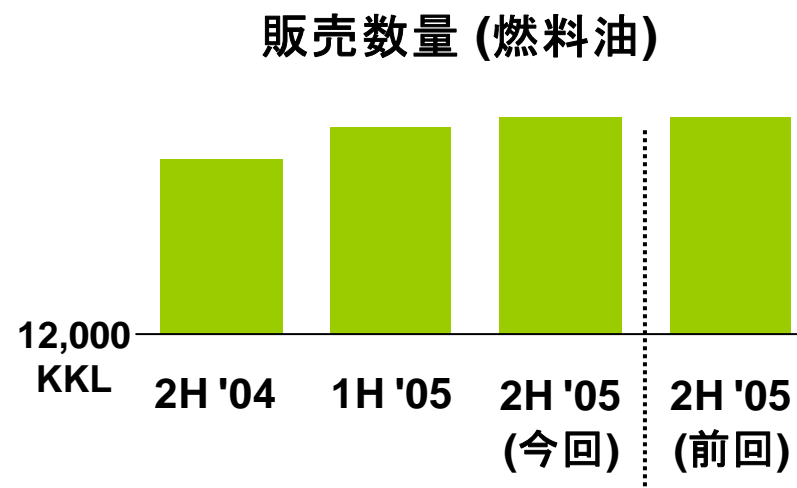
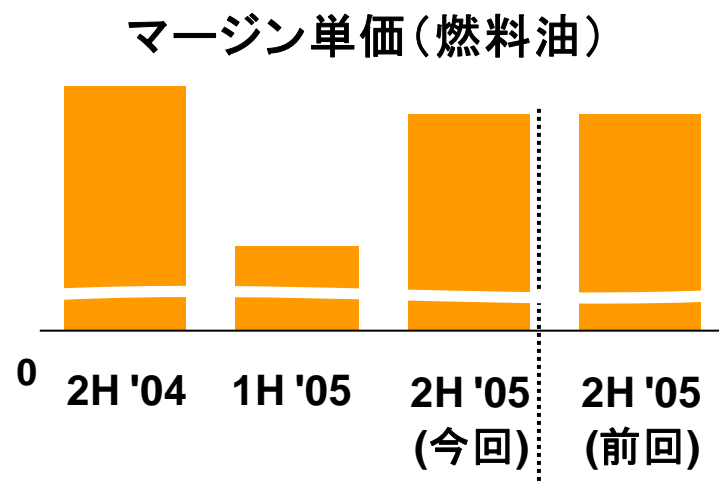
0.29

0.26

\*現預金・貸付金等の影響を除いた借入金 \*\* 1ヵ月分の揮発油税の影響

# 2005年下期 業績予想前提条件の修正

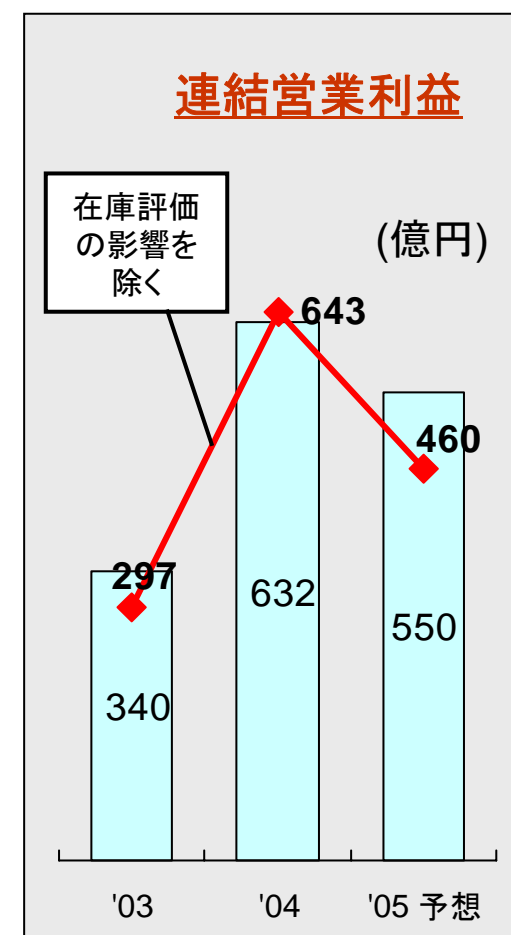
- 燃料油マージン '05上期より高く、前回予想より僅かに低い
- 燃料油販売数量 前回予想から変更なし, '05上期よりやや増加
- 石化製品マージン '05上期よりやや高い
- 石化製品販売数量 '05上期よりやや増加
- 経費 削減を継続 (前回予想から変更なし)
- 在庫評価の影響 通年で90億円の後入先出法(LIFO)による利益を予想
- 原油価格・為替レート 52.3ドル/バレル(ドバイ)、111.6円/ドル -- 2005年6月末の値  
[売上高の計算のみに使用]
- 在庫評価方法 後入先出法(LIFO)/低価法を継続



# 業績予想の修正 [連結]

- 2005年通期の調整後営業利益は 2004年と比べて183 億円減少
- 2004年末よりも在庫が取り崩される前提で、2005年通期で90億円の後入先出法による在庫評価益を見込む

(億円)	'04	'05 予想	上期	下期予想
売上高	23,423	<b>28,150</b>	13,249	14,901
営業利益	632	<b>550</b>	220	330
経常利益	686	<b>570</b>	239	331
特別損益	137	<b>-15</b>	-1	-14
当期純利益	482	<b>350</b>	148	202
在庫評価の影響	11	<b>-90</b>	-163	73
<b>調整後営業利益</b>	<b>643</b>	<b>460</b>	<b>57</b>	<b>403</b>
石油部門	219	-81	-204	123
石油化学部門	424	541	261	280

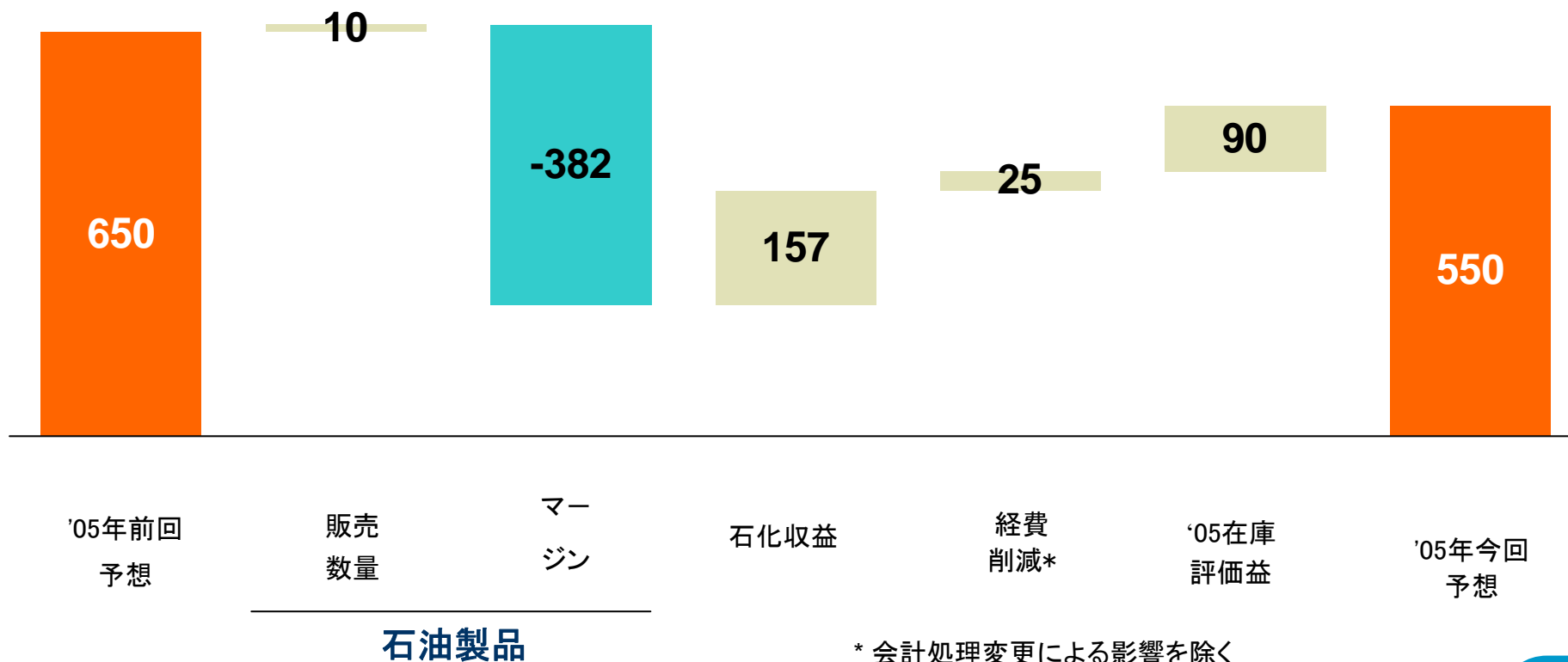


# 営業利益の要因分析

## ['05年修正予想 vs. '05年前回予想; 連結]

- 2005年通期の営業利益は 2月に公表した前回予想と比べて100億円減少
- 石油製品マージンの減少、石化収益の向上、経費の削減、後入先出法による在庫評価益を見込む

(億円)



\* 会計処理変更による影響を除く

# 配当政策と2005年配当予想

---

## ■ 方針

- » 適正な資本構成を維持
- » 安定した配当水準を維持
- » フリー・キャッシュ・フローとその使い道、および純利益の水準を考慮
- » 株主還元の総額を重視

## ■ 財務の健全性と株主重視の姿勢は変わらず

- » 潤沢なキャッシュ・フローと健全なD/Eレシオを維持
- » 年間配当は、1株当たり36円を予想  
中間配当および期末配当はそれぞれ1株当たり18円
- » 業界環境の先行きが不透明な中、資本構成に関する様々な選択肢について注意深く考察を継続

# 精製・供給部門

---

- エクソンモービルの世界的ネットワークの有効活用 -

武藤 潤

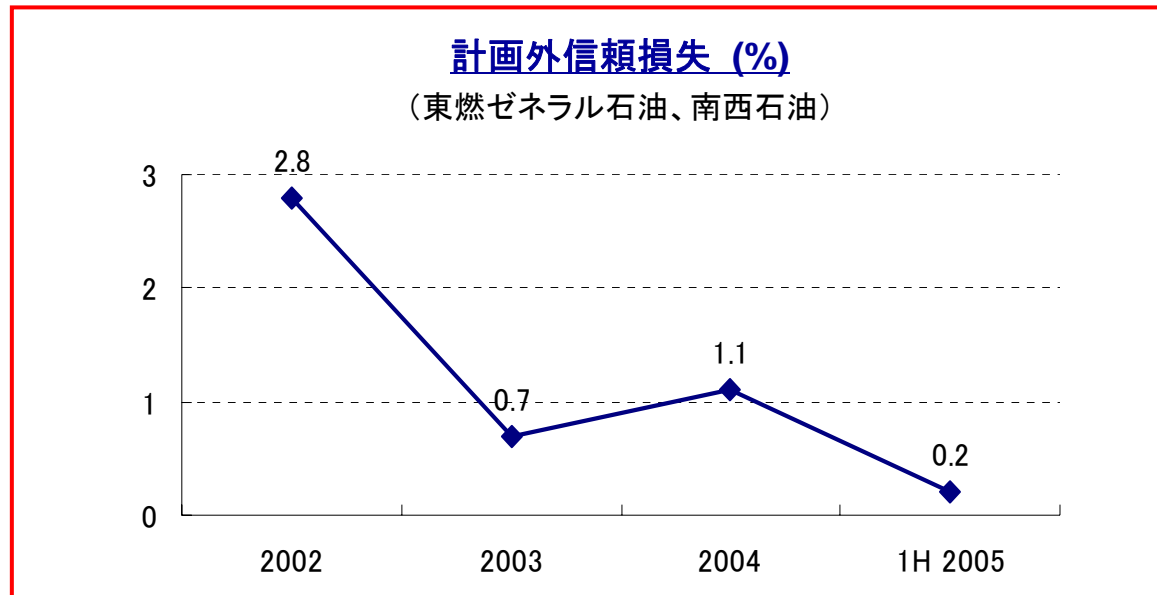
東燃ゼネラル石油(株)

取締役

和歌山工場長

# 安全性・信頼性の向上

- 包括的システム活用による安全操業の持続的改善
  - » OIMS (完璧操業のマネジメントシステム)
  - » LPS (ロス予防システム)
  - » 設備信頼性向上イニシャティブ

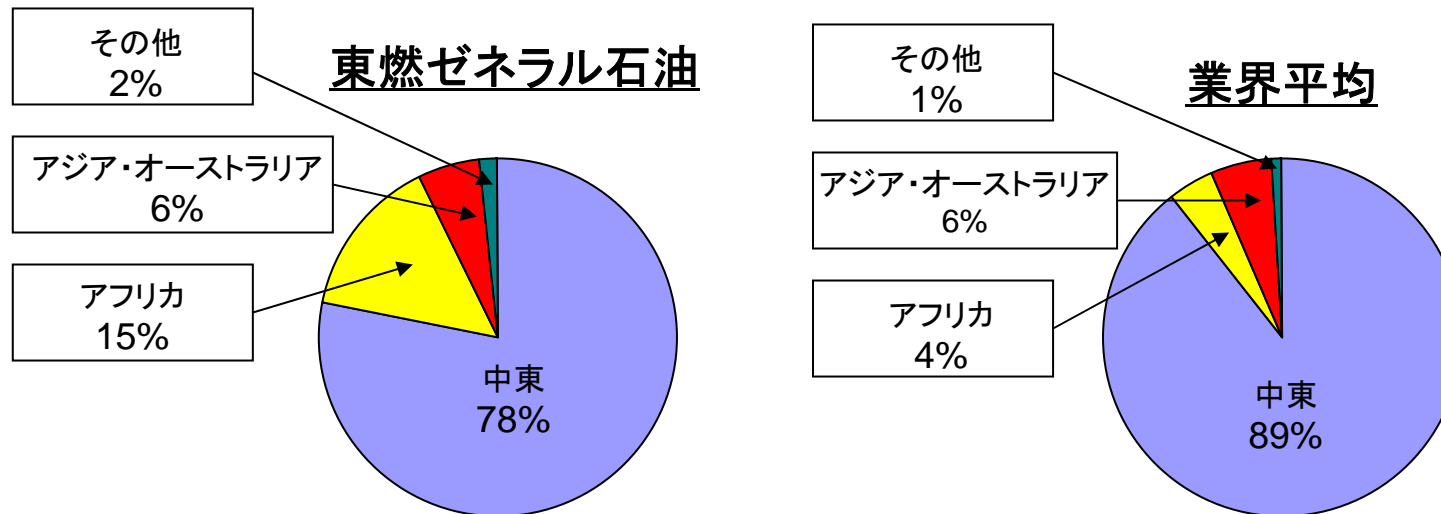


- 効率的内部管理
  - » CIMS (完璧な経営管理システム)

# 原油多様化の推進

- エクソンモービルの原油供給力の活用
  - » 西アフリカ、サハリンなどへの供給源の多様化
  - » 自社開発原油故のフレキシビリティ
- 「チャレンジ」原油\*処理ノウハウの共有化
  - \*)処理が困難な故、価格が低く設定されている原油
  - » 他のグループ内製油所の経験則を入手可能
  - » 技術面・エンジニアリング面での援助

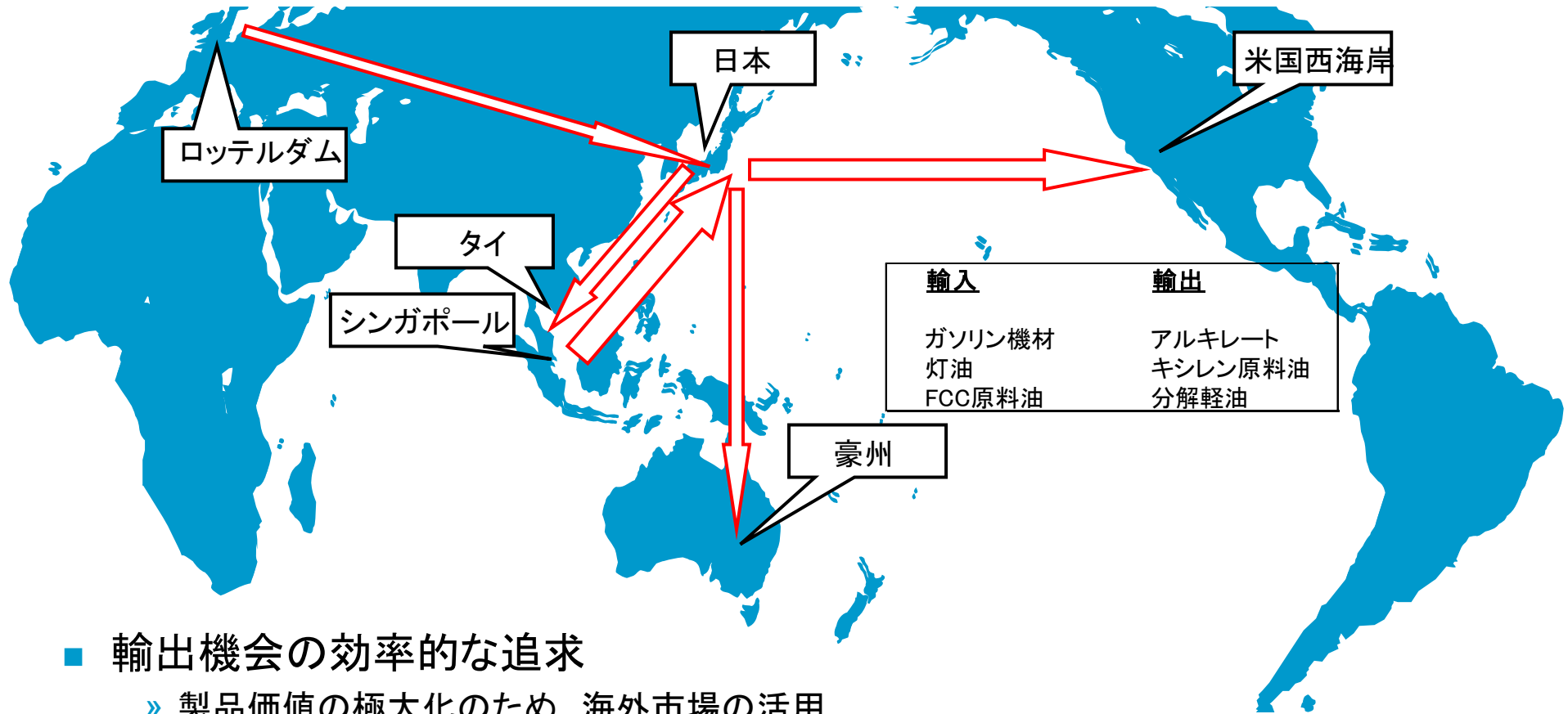
## 地域別原油輸入 (2004年度)





# 製品・半製品の有効活用

- エクソンモービル・グループ製油所間でのシナジー効果実現
  - » アジア太平洋地区での製品・半製品転送により、双方のメリットを享受
  - » 最適化の機会を欧州・米国西海岸へ拡大



- 輸出機会の効率的な追求
  - » 製品価値の極大化のため、海外市場の活用

# 化学部門

---

-特殊製品事業の成長と基礎化学製品事業の最適化-

D・L・シュスラー

代表取締役 社長  
東燃化学株式会社

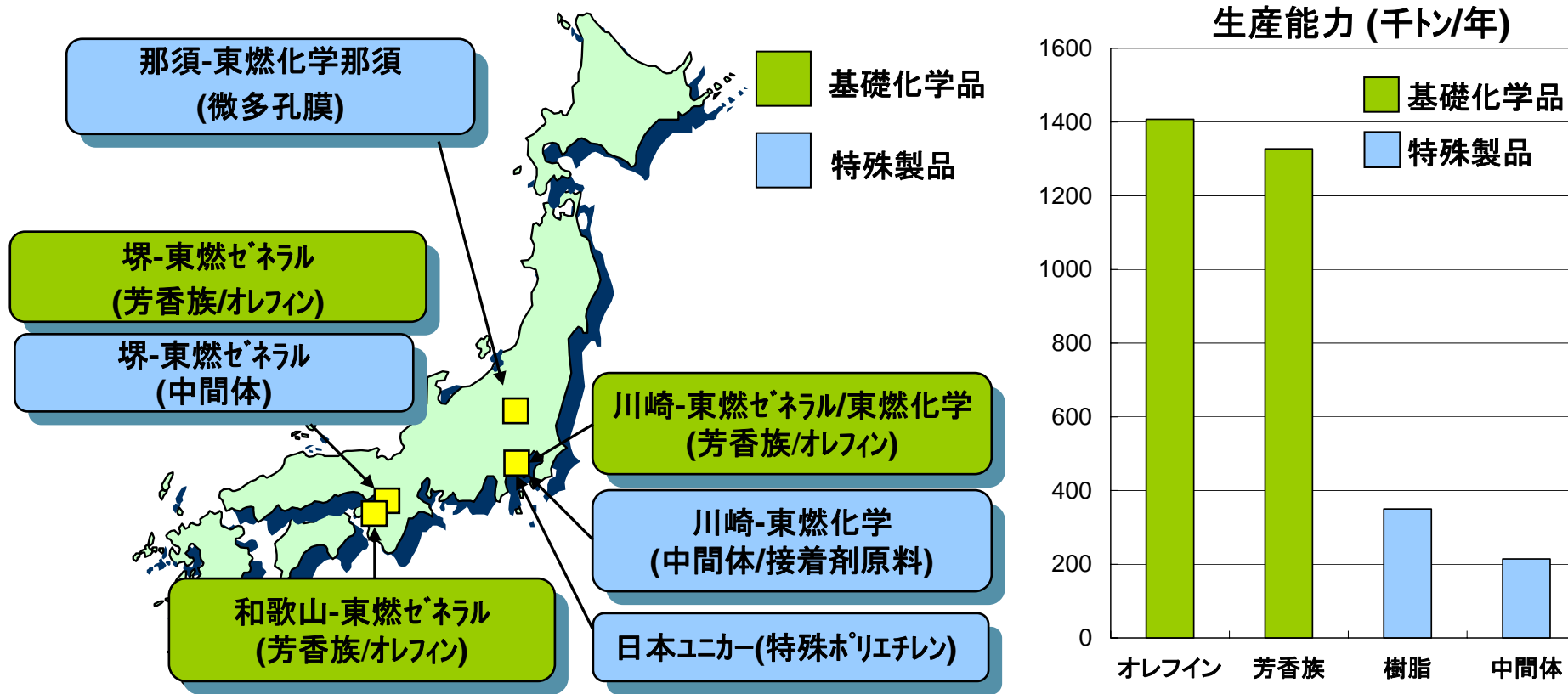
代表取締役 副社長  
エクソンモービル株式会社

## 将来に備える特殊製品事業への投資/基礎化学品事業の最適化

---

- 微多孔膜(MPF)、中間体製品、特殊ポリエチレン及び接着剤原料の当社特殊製品事業群の成長
- 石油精製事業との強力なシナジーの有効活用
- 徹底したコスト管理と信頼性の向上に継続的に注力

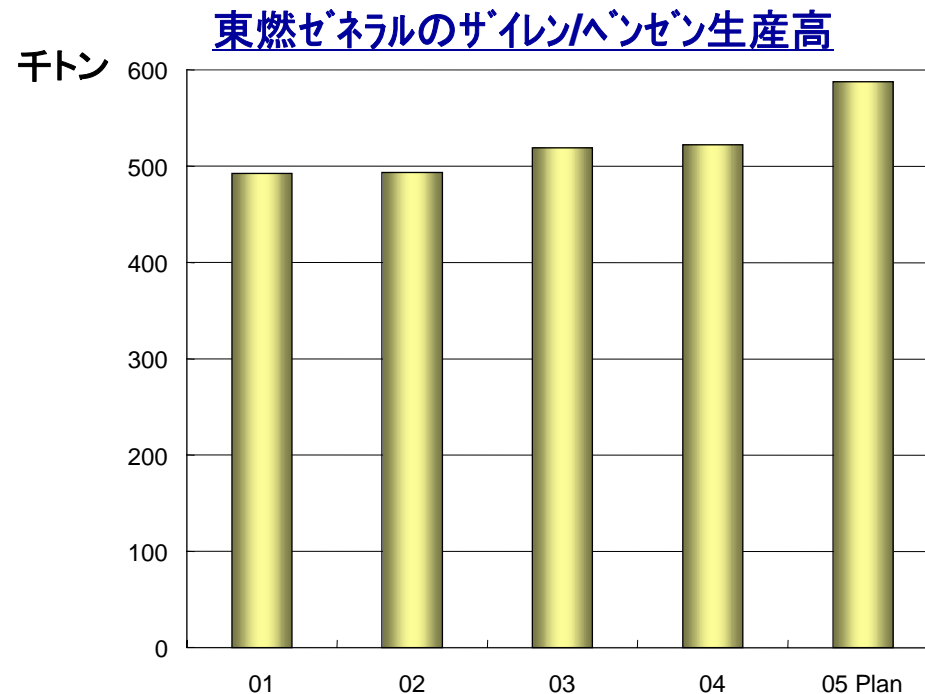
# 特殊製品事業の成長



- 微多孔膜、中間体製品、特殊ポリエチレン及び接着剤原料事業分野に対する投資を通じ、特殊製品事業の成長に注力
  - » 微多孔膜製造設備の増設
  - » 中間体製品/接着剤原料/特殊ポリエチレン製品の能力増強プロジェクト

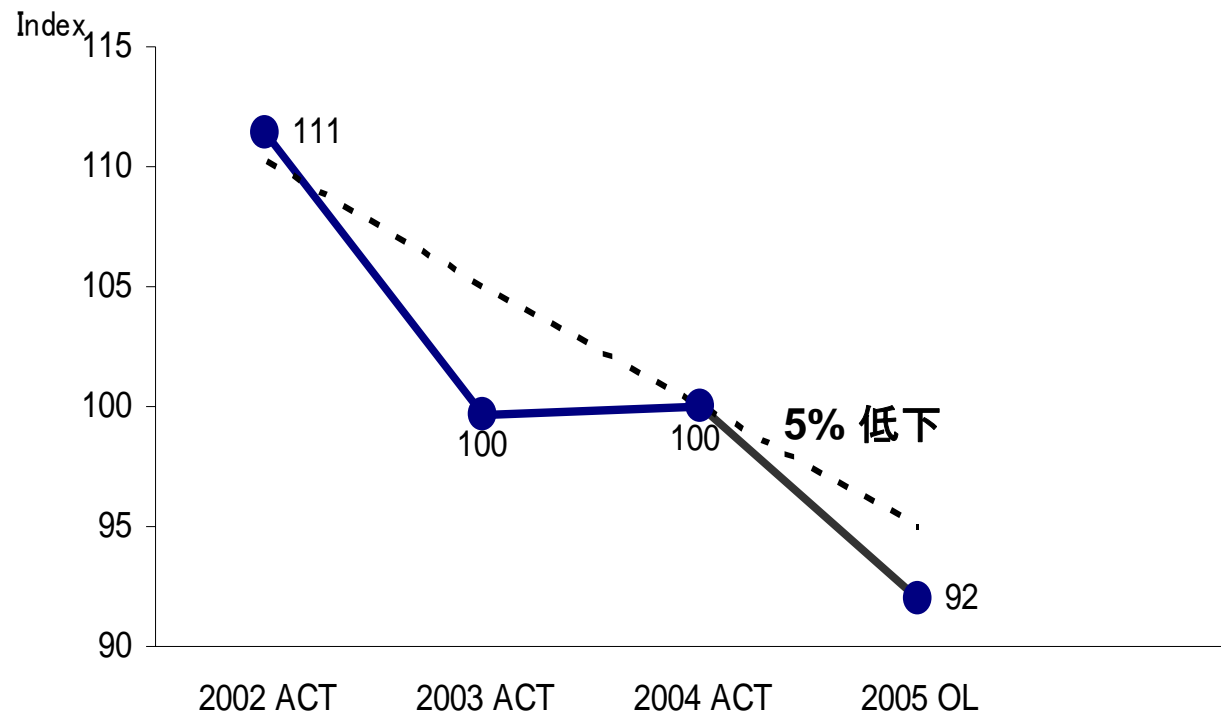
# 石油精製事業との強力なシナジーの有効活用

- 芳香族/オレフィンの生産能力の最大活用
- 川崎工場オレフィンの原料多様化/最適化プロジェクトの推進
- 和歌山工場/堺工場の芳香族プラントの生産能力拡張と効率化プロジェクトの推進
  - » 上記戦略のもたらした結果ーザイレンベンゼンの2005年生産高見込みは2003年比13% 上昇



# コスト管理に継続的に注力

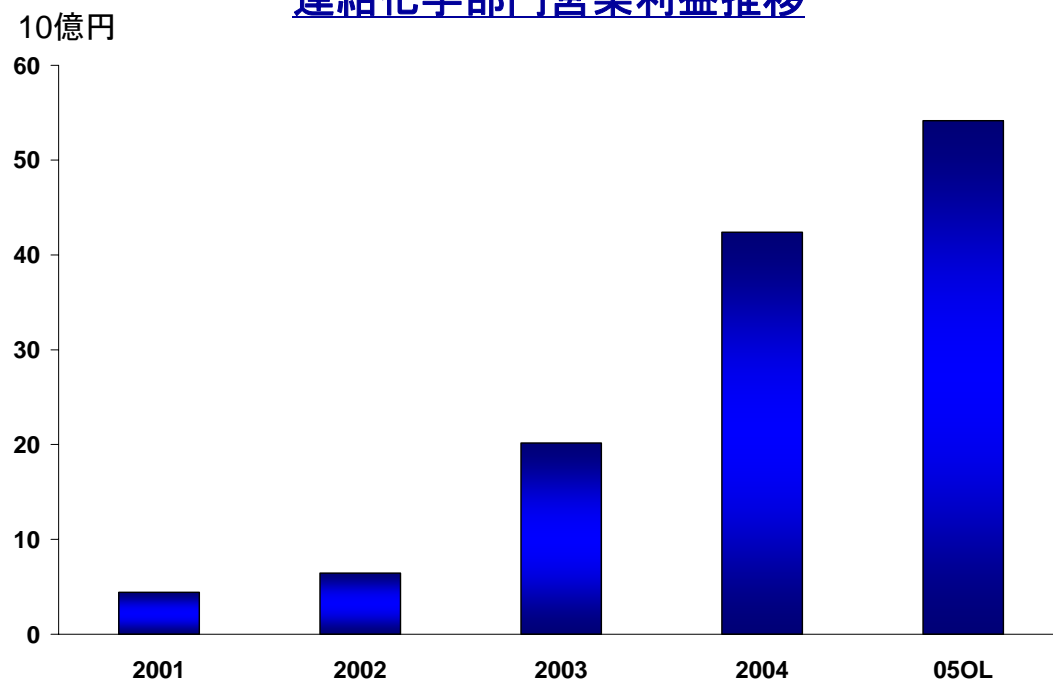
## 東燃化学固定費推移



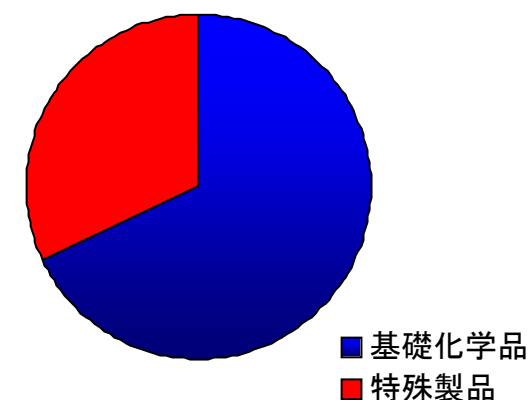
- リストラクチャリングと石油精製/化学のシナジーを通じて年率5%の固定費削減を実現

# 化学品事業戦略に基づく増益と収益構造

連結化学部門営業利益推移



2004年営業利益に対する  
特殊製品収益の貢献度



- 売上げ数量の増加、コスト削減、原料の最適化及び製品市況の改善により、基礎化学品の収益は改善
- 特殊製品の収益は近年の能力拡張投資に伴い増加